

セーフティネットの充実に 地域貢献委員会(施設連絡会)

9月7日、地域貢献委員会(以下、施設連)の会員施設や事務局を担う市町村社協の職員を対象に、情報交換会を実施しました。当日は約90人の関係者が参加。昨年度、大阪しあわせネットワークとの連携推進モデル事業に取り組んだ3市から実践報告がありました。

地域の拠点づくり

寝屋川市社協総務課係長の小澤真由美さんからは、飲食店舗の貸スペースを活用した「チョット寄ってん家」の取り組み報告がありました。



小澤真由美さん

障がい者らによる手作り物品の販売や、福祉に関する相談等の拠点づくりとして、高齢・障がい児童の分野を越えて、市内のさまざまな福祉施設が協働で運営しています。



マップづくり/災害対応

河内長野市社協企画総務課長の石田善美さんは「あんしんつながりマップ(施設紹介マップ)」について報告しました。幹事会や実務担当者会議に加

え、マップづくりを通して施設間のネットワークの強化や担当者間での顔の見える関係が構築できたことは、大きな成果です。マップを活用した市民へのPRも展開しました。



石田善美さん

さらに、災害が多発する中、施設連として市と福祉避難所等の協力に関する協定を結んでいることや、台風21号による被災後は、施設連の呼びかけで福祉施設職員がボランティア活動を行ったことなどを報告しました。



種別を超えた出張相談

枚方市社会福祉施設地域貢献連絡会の東山健、事務局局長(悠々の苑・施設長)は、イズミヤ枚方



店の協力を得て実施した「福祉なんでも出張相談会」について報告。相談会では、今年の1月から延べ5日間で48件の相談がありました。



東山 健さん

さまざまな社会資源とつながり、地域のネットワークの構築に市社協と協働して取り組み、さらに、小さくしフエスティ

後半は、グループに分かれて情報交換を実施。施設連の今後の方向性や取り組みの検討をはじめ、未設置の市町村は、これからの立ちあげに向けてのヒントを得る機会となりました。

本会では、昨年度のモデル事業の成果を踏まえ、「大阪しあわせネットワーク・地域貢献委員会連携推進助成事業」を3年度から3年間にわたり実施します。今年度は、11社協の助成が決定しました。この助成事業を通じ、大阪しあわせネットワークとの、より一層の連携を図り、地域の福祉力やセーフティネットの充実につながるよう支援していきます。

地域貢献委員会 2市村で設立!!

7月30日、社会福祉法人の「見える化・見せる化」を図るとともに、地域福祉の向上に寄与することを目的に「貝塚市地域貢献委員会」の設立総会が開催。市内の23社会福祉法人すべてが会員となり、事務局は貝塚市社協が担います。

会長には社会福祉法人貝塚南保育園の高田テイル理事長が選任。「市内23法人すべてが委員会に加入したことはたいへん心強い。高齢・児童・障がいの分野を越え、オール貝塚として一丸となり、地域貢献活動を活性化していきたい」とあいさつしました。今後は、地域のニーズに対し、各法人の強みを生かし活動を進めていきます。

千早赤阪村

9月1日、「千早赤阪村社会福祉施設連絡会」が設立されました。事務局を担う千早赤阪村社協を含む村内3法人が会員です。地域福祉の推進を目的として、地区福祉委員会と連携を密にしつつ、地域貢献事業に取り組み予定です。 ※府内41市町村中34カ所で開催(10月1日現在)

行列のできる子ども食堂「寺子屋」

地域で“協働”運営 (貝塚市)



子ども同士で相談したり、スタッフに教わりながら勉強しています

貝塚市民児協の中央校区では、小学生を対象とした子ども食堂「寺子屋」を、夏休み期間限定(毎週水曜日)でオープンしました。寺子屋は町会館を会場に、中央校区福祉委員会や地域のボランティアとの協働で運営。小学校の協力のもと、担任の教諭を通してチラシを配布しました。1階が勉強スペース、2階が食事スペースで、受付時に食事の順番を記した整理券が配布され、番号が呼ばれるまで1階で宿題や自主勉強を行います。近くにはスタッフが待機しており、子どもたちに優しく声をかけたり、アドバイスしたりする姿が見られました。寺子屋には毎回100人近くの子どもたちが参加し、会場はいつもいっぱいです。整理券を受け取るために早い時間から並んでいる子どもたちもいるほど。昼食はカレーやスパゲティなどの人気メニューで、おかわりを子どもたちが絶ちま

子育てサロン 実施地区研修会・連絡会を開催!

(泉佐野市)



「寺子屋」のチラシは、学校の担任から直接子どもたちに配られます

泉佐野市社協では、情報共有や交流を通じてサロン運営の質の向上を図ることを目的に、毎年子育てサロン実施地区研修会・連絡会を開催しています。今年度は9月25日にスマイルサポーター(〇)とボランティアで、各地区の取り組みや困りごと等についての意見交換が行われました。ある地区では子育てサロンの参加者が年々減少していますが、地域の居場所を必要とする親子がいずれも参加できるように、定期的にサロンを開いています。参加者の増加を図るため、チラシの配布・掲示やSNSを活用した情報提供のほか、スマイルサポーターが所属する保育園で開催される親子教室で、サロンの取り組みを紹介しています。サロンの運営方法も、地区に



子育てサロンの様子

と日頃抱えている悩みを共有することで、リラックスする時間を過ごすことができます。参加者からは「今回の研修会で他地区の取り組みを聞いて、自分の地区でも取り入れたいと感じた」と、今後の運営に対する意気込みの声がありました。

〇スマイル サポーターとは

保育園・認定こども園等に在籍する保育士等で、実務経験5年以上の方が所定の養成講座を修了し、大阪府知事の認定を受けた「地域貢献支援員」の愛称。育児、家庭、病气、介護などの相談に応じ、制度・サービスになぎます。